「柏崎の橋」

７２　妙法寺地区の橋（仲橋ほか）

妙法寺地区は、中世から江戸時代は長岡街道の宿場町として、江戸時代後期から明治時代は石油産業で栄えた所である。明治以降は宿場制度がなくなり、妙法寺地区を通っていた県道も、明治天皇の北陸巡幸を契機に曽地街道に移行し、更に鉄道（信越本線・越後線）の開通により、妙法寺地区は次第に交通の中心から外れていった。

これを打開しようと昭和初期から、妙法寺村では二田村（いずれも当時の名称）に通ずる村道南慶寺線の整備を計画した。昭和２８年に幅１．４ｍの木枠のトンネル（隧道）を開削したが、数年のうちにトンネルの木枠が腐食したため、昭和３７～３９年に工事を行い、コンクリート式の南慶寺トンネルが完成した。

西山町の妙法寺地区で妙法寺川に架かる橋は、現在北東から南西にかけて、①仲村橋②仲橋③本橋④五枚田橋の４本である。①③④は市道妙法寺線、②は市道南慶寺線を通っている。

西山町全図が作成された昭和５８年と現在では、妙法寺地区内の道筋に大きな変化があった。それまで県道礼拝長岡線は妙法寺の集落内を通り、仲村橋付近から南東側に向い妙法寺峠を越えるルートであった。ところが昭和６０年代末から平成初期にかけて、集落の南側に礼拝長岡線が付け替えられ、南慶寺線も新設の礼拝長岡線まで延長された。仲橋はこれに伴って新設されたものである。

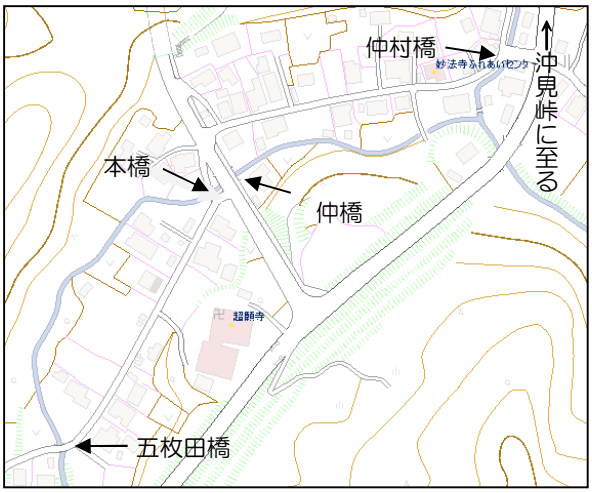
西山町全図（実線は県道礼拝長岡線）

更に礼拝長岡線は、仲村橋付近を北側に迂回し、刈羽村との境を貫通する沖見峠トンネル（平成１２年完成）を通って刈羽村油田地区から長岡へ至るルートに付け替えられた。

左:本橋、右:仲橋、左奥:南慶寺トンネル

沖見峠から少し下った小字草生水の傾斜地に、天智天皇の即位７年（６６８年）に越の国から燃える水を献上したとのいわれがある石油の噴出口で、柏崎市指定文化財である「草生水の献上場（おんじょうば）」がある。（なお沖見峠には往時笠松の清水があった。詳細はソフィアだより１１９号に掲載）

妙法寺地区の橋は、住民の貴重な交通手段として、今後も地域での役割を担い続けるであろう。



現在の妙法寺地区
（柏崎市ＧＩＳベースマップより）

●参考にした資料
「宿場町妙法寺の文化」（２２４ニシ）
池田政太編　西山町教育委員会
「西山町誌」（２２４ニシ）
西山町誌編纂委員会編　西山町役場
「続西山町誌」（２２４ニシ）
続西山町誌編集委員会編　西山町役場
柏崎日報　昭和３８年１２月２６日１面
柏崎日報　昭和３９年4月２４日１面